

2024年2月13日

北九州市議会議長
田仲 常郎 様

産業遺産学会会長 横山悦生

「初代門司駅遺構」保存・公開の要望

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

JR 門司港駅近くの「門司港地域複合公共施設整備事業」にともなう埋蔵文化財発掘調査において、1891（明治 24）年に開業した九州鉄道門司駅（初代門司駅）の遺構が発見されました。同年に建設された九州鉄道本社の建物は、国の登録有形文化財になり、九州鉄道記念館として活用されています。九州における鉄道の創業は、九州鉄道会社が門司駅から八代駅までを計画したことに始まるのは、ご存じのとおりです。また、初代門司駅の後継となる 1914（大正 3）年に竣工した JR 門司港駅は、重要文化財に指定され、現在も使用されています。このように、初代門司駅遺構は、九州の鉄道史、さらに近代史において重要な位置を占めるとともに、門司の鉄道遺構群に、新たに加えられるべき埋蔵文化財であると言えます。ただし、以上のことは、この遺構の内実のたんなる一面を表現したに過ぎないと思っています。

産業遺産学会は、発掘調査の成果をふまえ、この遺構が重層的で多様な要素をもち、都市史、交通史、土木建築史などの研究において、大変重要な産業遺産であると確信しています。その根拠は、以下の通りです。

(1) 都市史の観点

今回の発掘調査において、初代門司駅遺構（機関車庫、倉庫など）および 2 代目門司駅遺構（倉庫石垣など）が出土している。また、1889（明治 22）年に開始した門司築港以前の護岸石垣が見つかっている。さらに、古墳時代から江戸時代にかけて、数多くの遺物が発見されている。「港湾都市門司」はいかにして今日に至ったのか。今回発掘された遺構や遺物は、その歴史を解明する重要な手がかりになると考える。

(2) 交通史の観点

1872（明治 5）年に日本初の鉄道が新橋・横浜間に開通したのは、ご存じのとおりである。九州に初めて鉄道が開通したのは 1889（明治 22）年であった。その鉄道の本社は門司に存在し、門司駅は本州の鉄道との接点に位置している。九州と本州との間にトンネルや橋はなく、船で往来していた時代である。初代門司駅遺構の発見そのものが、鉄道開通前後における交通の近代化の状況を明らかにすることになると言える。また、先述した門司築港以前の護岸石

垣は、港湾として整備される歴史を理解する貴重な遺跡である。門司港は国内だけでなく、海外との窓口となり、日本有数の貿易港へ発展していく、その原点の遺構と言ってよい。

(3) 土木建築史の観点

検出された遺構そのものが、明治中期の土木建築の技術を表している。まず、遺構は近世の海岸線と護岸、門司築港最初期の埋め立て技術を具体的に示している。とくに、機関車庫の基礎は、地盤の状況に応じて、近世的な「洞木」と近代的な「コンクリート」を同時に採用していることが確認されている。このことは、土木建築史に新たな事実を刻むことになると思う。

本州の鉄道は、おもにイギリスの技術により敷設されたのに対し、九州の鉄道はドイツの技術を用いて敷設された。発掘された初代門司駅遺構は、九州鉄道本社（九州鉄道記念館）や茶屋町橋梁、菊池川橋梁とともにドイツの技術が活かされた施設であると考えられる。今後の調査・研究により、ドイツの鉄道技術の影響が明らかになることへの期待が高い。

(4) 産業遺産の観点

最後に本学会の観点にもとづき説明する。鉄道遺産のうち、旧碓氷峠鉄道施設、JR 門司港駅、JR 東京駅などが重要文化財に指定されている。また、2007年の「石見銀山遺跡とその文化的景観」を皮切りに、日本の産業遺産は世界遺産に登録されるようになった。2015年登録の「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、九州の産業遺産を中心に構成されており、福岡県は八幡製鐵所や三池炭鉱が対象になっているのは、記憶に新しい。この動きにともない、産業遺産は人々に広く知られるようになり、その歴史的価値や文化的価値への認識が深まっている。初代門司駅遺構は、日本の近代化が地方に及んだことを象徴する鉄道遺産であり、貴重な観光資源となるだけでなく、地域振興の拠点となる可能性をもつ産業遺産である。

- 遺構の一部を移築して保存することについて（1月24日市長会見）
本学会が考える課題、要望を次に記します。

〔課題〕

- ・検出された遺構や遺物の学術的な分析は、まだ続いています。調査報告書は2024年3月に公表される予定です。また、発掘調査の成果と史料や文献を関連づける調査研究を行う時間が必要であると思います。すなわち、その価値を確定するための調査研究の時間が十分でないと考えます。
- ・観光資源としての可能性をもっているにもかかわらず、その活用方法は十分検討されていません。そもそも、門司港レトロは、港湾都市門司の産業遺産を中心に構成されています。そして、福岡県でも有数の観光地になっています。産業遺産を観光資源として活用しながら、新たな産業遺産については、あまり関心がないように思われます。こうした市の政策や方針は、矛盾していると考えます。

〔要望〕

- ・「門司港地域複合公共施設整備事業」を中断し、十分な調査・研究を行い、その価値を確かめたうえで、委員会を設置し、開発と保存の両立をはかるべく、検討していただくことをお願いいたします。

なお、本学会は、以下の①、②（①を優先）のどちらかを採用していただきたく、要望いたします。さらに、それに附随して、(1)、(2)の両方、あるいはどちらかをとり上げていただきたくお願い申し上げます。

- ①将来建設される「門司港地域複合公共施設」の中に、該施設が初代門司駅遺構の跡に建設されたことを伝える展示スペースを設けること、発掘された遺構の中でも重要な部分を見ることのできる床面に仕上げていただくことを要望いたします。

例) 旧新橋停車場鉄道歴史展示室、横浜開港波止場鉄軌道及び転車台跡

- ②初代門司駅遺構の一部を公園として整備・開放し、JR門司港駅と九州鉄道記念館の両側からのアクセスを可能にし、日本一の外国貿易で石炭交易の玄関であった門司の産業景観を後世に伝えることを要望いたします。

例) 高輪築堤

- (1) 初代門司駅遺構からの発掘品や図面、古写真等を活用し、門司港の繁栄の様子、旧門司駅を中心とする鉄道施設の様子を学べる常設展示コーナーを九州鉄道記念館に設けることを要望いたします。

(2)九州の鉄道の歴史と産業遺産を紹介することを目的に、門司港レトロ地区の玄関である JR 門司港駅舎の中に、初代門司駅遺構や九州鉄道本社（九州鉄道記念館）、茶屋町橋梁、菊池川橋梁などの鉄道遺産を紹介するコーナーを設けることを要望いたします。

産業遺産学会

会長 横山悦生

〒113-0033 東京都中央区新川 2 丁目 22 番 4 号

株式会社共立気付

Tel. 03-3551-9891

担当 時里奉明

〒818-0192 福岡県太宰府市石坂 2 丁目 12 番 1 号

筑紫女学園大学

Tel. 092-925-9182（研究室） 090-7925-6870

E-mail tokisato@chikushi-u.ac.jp